

不透明な未来を切り拓く「企画力」を磨こう

一般社団法人日本経営協会講師 北野 清晃

■企画とは？／企画力とは？

「企画とは何か？」と聞かれると、「アイデアを発想すること」「企画書をキレイにまとめること」と思う方もいるかもしれません。しかし、これらは企画のごく一部に過ぎません。

企画とは、新たな仕事やプロジェクトに取り組む際、「柔軟な発想でビジョンやアイデアを描き、論理的に問題・課題を検証し、最終的には勇気を持って意思決定する」という創造的なプロセス全体のことです。

このプロセスを回す総合的な力を「企画力」と呼んでいます。企画力は、政策形成や業務改善などの仕事に必要な力ですが、実は、プライベートでも必要な力です。家族で何かを決定する、大きな買い物をする、あるいは、人生やキャリアの選択をする、などの様々な決断の場面においても、企画力は思考の広さと深さ、創造的なアイデアをもたらしてくれます。企画力によって、よりよい職場や業務にもなりえますし、より豊かな人生にしてくれるかもしれません。また、近年のコロナ禍という状況を鑑みても、「いかに考えるか」を凝縮した企画力はタイムリーなテーマだと思います。限られた情報や時間の中でいかに考え、仮説を立ててやってみるか、臨機応変に軌道修正するか、は変化のスピードが速い不透明な時代だからこそ学んでほしい内容です。企画力は「自ら未来を切り拓く力」と言えます。

■論理と直感のアプローチ

もしかすると、「企画は真面目に考えないといけない」と思った人もいるかもしれません。しかし、企画は真面目（論理性や合理性）に考えすぎてもなかなかうまく行きません。もちろん、論理性や合理性は必要ですが、これらだけでは実効性のある企画や、企画者本人が本当に面白くやりがいを持てる企画、にはなりません。企画には、論理的思考と対極にある「直感的思考」も重要です。自分の創造性や感性、経験を手がかりに、突飛なアイデア（周りが笑うようなアイデア）を、空気を読まずに出してみたり、他者のアイデアに便乗したりするなど、時に「楽しむ・遊ぶ」感覚が重要です。論理性や合理性だけでは突破できない固定概念や思い込みを外し、突破口を開くきっかけになったりします。

■ワークショップ形式で実践的に学ぼう！

以上のような考えのもと、本研修では論理と直感を往復しながら思考を統合していくための方法や技術を実践的に学んでもらいます。研修はワークショップ形式の参加型のプログラムです。講義だけではなく、クイズやワーク、演習など交えて、実際に企画サイクルを回してもらうので、仕事に繋がる実践的気づきを得てもらえると思います。企画には絶対的な正解はありません。自分ごとで考え、お互いに学び合い、“楽しみながら”企画力を磨こうという気持ちで本研修を受講いただくと、より学習効果が高いと思います。ぜひご参加をお待ちしております。



株式会社北野商会代表取締役 ワークショップデザイン研究所代表 京都大学非常勤講師博士（総合学術）・専門修士（経営学）・修士（工学）・中小企業診断士・一級建築士

金沢大学大学院を修了後、都市計画コンサルティング会社に入社。自治体の計画策定業務やまちづくりワークショップの企画運営に携わる。その後、人材育成を支援する公益法人に入職。企業や自治体の研修やセミナー、シンポジウム、委員会等の企画業務に8年間従事する。

同社退職後、実家の中小企業支援に取り組むとともに、京都大学経営管理大学院（サービス価値創造プログラム）、京都大学大学院情報学研究科博士後期課程（デザイン学プログラム）にて、行動観察手法を用いた、組織デザイン、サービスデザインの研究活動に取り組む。現在は、企業や自治体にて、人材育成・組織開発・製品サービス開発に関する、プロジェクトやワークショップ、研修の企画に携わり、講師／ファシリテーターとして活躍している。